

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 4 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890400140
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 優瑠里 Aユニット
記入者(管理者) 氏名	橘井 義浩
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 介護の現場に「安全」「安心」「生きがい」を提供し社会に貢献できる企業を目指します。開放的で情熱的自由で透明性が高い挑戦できる会社を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 外出支援や外にできる機会を増やす事を目標にしていたが、コロナ感染症の拡大感染防止から外出の機会を増やす事もなく自粛となった。また、令和4年年末から令和5年年始にかけて施設内にコロナ感染者が増え通常、勤務が出来ず職員確保も困難な状態であった。感染者がいなくなった後は、婦人会の協力を得て、花壇の花植えや近場での外出、ドライブ、施設内の行事も出来る範囲で行っている。前任者の目標について、地震、火災、津波のマニュアル作成については取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 国道から少し離れた住宅街にあるみかん畑に隣接している事業所は、2度の経営移管が行われ、令和4年7月から現在の法人が経営をしている。法人移管前から職員は継続雇用され、長年勤めていた職員が新たに管理者に就任し、以前と変わりなく、利用者の穏やかな生活が送れるよう支援することができている。管理者は、利用者の意思を尊重しながら、「楽しく笑顔で過ごす、優瑠里で過ごせて良かった」と思ってもらえるように、職員と一丸となった支援が行われている。職員の聞き取りから、「笑顔で対応し、利用者の話を聞く時間を大切にしたい」と話を聞くことができた。また、地域の婦人会に、事業所の庭に花を植えてもらうなど、定期的に、地域との交流が図られている。さらに、家庭的な雰囲気の中で、利用者が好きなことをしながら、自分らしい生活が送れるような支援にも取り組んでいる。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	声かけを大事にし、話を傾聴し行動や表情で把握に努めている。	◎	/	◎	日常生活の中で、職員は利用者へ声をかけ、思いや意向等の聞き取りをしている。利用者の表情や行動に変化が見られた場合には、リビングや居室でゆっくりと話を聞き、柔軟に対応をしている。把握した内容は記録に残し、職員間で情報を共有している。また、面会時に、家族から希望や意向を聞くようになっている。さらに、思いを言い表しにくい重度の利用者には、家族から情報を聞くとともに、利用者の表情やしぐさなどから、思いをくみ取るよう努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人の視点で検討しているが常にはできていない。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族来所持に現状報告を行っている	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	共有化のため、記録を細かく記入している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	話を傾聴し個別ケアの時間を設けている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	話を傾聴しまた、家族様より情報を得ている。	/	/	◎	入居前に自宅を訪問し、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や担当の介護支援専門員から情報を聞くこともある。また、病気などの医療関係の情報は、主治医から情報収集をしている。さらに、日常生活の中で、職員は声をかけ、利用者や昔話などをしながら、新たな情報を聞いて把握し、職員間で共有をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	毎朝バイタル測定を行い実施LNSと情報を共有している。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	△	生活の流れは、ほぼ同じなため、日々の違いは把握が難しいが、申し送り等で情報共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の思いや家族の要望、また、職員の気づきを検討し本人の視点で検討している。	/	/	◎	入居前に得た情報は職員間で共有をするほか、入居時に担当者会議を開催し、利用者や家族、職員等を交えて話し合い、利用者本人の視点で、課題やより良いサービスを検討している。また、定期的に利用者の状態を確認し、その時々で何が必要かどうかの検討も行われている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	毎月担当職員が評価を行い課題を見つけ情報共有している。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向を聞いてケアプランに反映されている。	/	/	/	日常生活の中で、利用者から意見や意向を聞くほか、面会時や電話連絡時に家族の希望等を確認し、職員の意見やアイデアを取り入れながら、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、主治医や訪問看護から指示や意見をもらい、計画の中に反映している。計画作成担当者は家族の意見の引き出し方に苦慮しているが、「今後は、具体的な質問方法を取り入れながら、確認をしていきたい」と考えている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	定期的にカンファレンスや実施しケアプランを作成できるよう努めている。その他の関係者とは少ししか意見交換ができていない。	◎	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者に対して慣れ親しんだ環境で日々の過ごし方ができるよう見極めている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ感染防止のため、地域や家族様の協力体制がすくない。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランに基づき介護記録を記入している為、職員間で共有している。	/	/	◎	ユニットごとに、全ての利用者の介護計画がファイルにまとめて綴じられ、職員はいつでも確認できるようになっている。また、計画のサービス内容などに沿った介護記録のほか、申し送りノートに記録を残すようにしている。特に、「浮腫が強くなっている」などの病状変化は申し送りノートに記録を残し、職員間で情報共有をできるようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	ケアプランに基づき実施、記入をしているが、不十分な点がある。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	モニタリングを実施し見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は6か月に1回見直しをしている。入居して間もない利用者には、1～2か月で計画の見直しを行い、その後は6か月で評価を行い、計画の見直しをしている。月1回程度、担当職員がサービス提供状況を確認して評価を行い、利用者の現状を確認して記録に残している。また、軽微な状況の変化は職員間の申し送りで対応するほか、骨折や退院後には1か月程度の利用者の経過観察をした後で計画の見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。さらに、認知症状の悪化等による区分変更時には、その都度計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	明かな変化があった場合は確認しているがケアプランの見直しは行っていない	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	情報共有はできているが、計画作成は出来ていない。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	スタッフ会議やケアカンファレンスを通じて課題を提示し、課題解決に向け話し合いをしている。	/	/	○	月1回スタッフ会議とケアカンファレンスを実施し、情報共有をするほか、利用者の状況の確認をしている。転倒等の緊急案件が生じた場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、話し合われた記録を残し、全ての職員に回覧をしている。また、軽微な出来事は、日々の申し送りや業務日誌等を活用して、情報を共有している。さらに、会議に参加できなかった職員には、管理者等から口頭で報告するほか、会議録を閲覧する仕組みづくりをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議参加者が全員発言してもらう仕組みを取っている。また、ユニット会議では利用者一人一人に担当者をつけ担当者中心となり意見交換をしている。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	スタッフ会議は18:30から開催している。よって出来る限り多くの参加可能な仕組みになっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	日中勤務者がユニット間で朝礼をし夜勤者に関しては日勤者は申し送りノートを活用し全て伝えている。	○	/	○	業務日誌や申し送りノート、伝達しなければならない情報を書き留めたシートを活用して、日々の申し送りを実施し、職員間の確実な情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日常生活においてご本人に相談したり、希望も聞き出来る限り実行するようにしている。	/	/	/	毎日の着替えの際に洋服を選んだり、水分補給時の飲み物を選択したりするなど、職員は利用者に声をかけ、自己決定できる場面を多く作るようにしている。また、職員は「○○しませんか」などの声をかけ、意向が確認できるような具体的な問いかけを心がけている。時には、職員が利用者の好きな歌を耳元で歌唱すると笑顔が見られるなど、趣向に応じた個別の支援も行われている。訪問調査日には、野菜の下ごしらえに真剣に取り組む利用者の様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者様に声をかけをする際、問いかけるような声をかけをし自己決定を促している。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者一人一人の力を把握し、その日の体調や気分に合わせて、その人のペースに合わせた生活を送って貰えるよう努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	喜びや楽しみを実感できるよう笑顔で対応している。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声掛けを中心に行い、表情や反応から思いを汲み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	利用者を尊重し同じ目線で声掛けをするよう努めている。	◎	○	○	定期的に、事業所内研修を実施し、人権や尊厳、プライバシーなどを学んで理解し、職員は利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。研修実施直後には、職員は意識した声かけなどを支援することができているが、業務が多忙の際に、職員間で大きな声かけをしてしまう場合も見られる。また、今回の外部評価の自己評価を職員と一緒に実施したことで、職員の振り返りや意識づけにも繋がりと、職員が居室に入室する際に、声かけをして了承を得てから入室するとともに、不在時にも、事前に「掃除に入っているですか、洗濯物を入れますね」などの声をかけてから、意識して入室できるようになってきている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時は必ず扉をきちんと閉めるよう配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	利用者が居室に居る場合は、声掛け後入室しているが、利用者が居ない場合の入室では、本人に確認を取って入室するのがまだ不十分な所がある。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライベートや個人情報に関しては、定期的に職員に周知している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	年長者として、利用者から学ぶべき点は多々ある為、信頼関係を構築し、時には助けてもらうように日々努めている。	/	/	/	男性の利用者同士が、言い合いで口げんかをすることもあるが、職員が早期に間に入り、話を聞くなどの落ち着いてもらえるような対応をすることができている。また、職員は利用者の性格や関係性を把握し、配席の考慮をするなどの早めの対応をしている。さらに、トイレに行こうとする車いすの利用者に、他の利用者が車いすを押すことを手伝ったり、手をつないで一緒に歩いたりするなど、利用者同士が支え合う場面も見られ、職員は見守りや注意を払っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	できる事はして頂き、できない事は補うように支援していく。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	レクリエーションでは皆さんが参加できるような事も取り入れ孤立しないようにしている。仲の良い利用者同士は職員が仲立ちし、積極的にコミュニケーションを図れるようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きた場合、職員がすぐに介入し解消に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ある程度は把握しているが、把握しきれない部分もある。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ感染防止のため、外出や友人等会ったりはできていないが、面会室の面会は出来るようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ感染防止の為、希望に沿っていない。	○	△	○	定期的に、外出レクリエーションの計画を立てて、ドライブをして季節の花を見に行くなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、日常的にも、近隣の公園に出かけて外気浴をしたり、事業所周辺を散歩したりすることもできている。さらに、庭先で草引きをしたり、地域の婦人会の協力を得て花を植えてもらい、水やりなどをすることもできている。加えて、重度の利用者にも、日中にホールに出て過ごしてもらい、窓から吹き込む外気を感じながら生活を送れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ感染防止のため、外出支援を行っていないが婦人会の協力により花植えもして頂ききっかけを作っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症に関する事はスタッフ会議の中で行う勉強会を通じて理解を深めているが分からない部分もある。	/	/	/	足踏み体操やラジオ体操を実施したり、数字盤やパズル、カルタなどの得意な脳トレやレクリエーションを取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持や向上を図れるよう取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者自身ができることは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	日々のケアの中で身体面の機能低下を医師、看護師、職員と共に連携図り向上を努めているがもっと理解を深めていく必要がある。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	事前に得意な事や好きな事を把握し、出来る事、出来そうな事をお願いしてもらい、分からなければお手伝いしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや役割(洗濯量み等)を見つけ日々の業務にあたっている。	/	/	/	外出時に、化粧をしたり眉毛を書いたり、男性利用者には髭を剃ってもらうなど、利用者自身に洋服を選んで身だしなみを整えてもらい、少しでも楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、職員は利用者に声をかけて、洗濯物干しやたたみ、台拭き、調理の下ごしらえなどの役割を担ってもらい、少しでも張り合いのある生活が送れるよう支援することができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	楽しみや役割はその人それぞれ異なっていて、それを把握し、それに沿った取り組みを出来る範囲で行っている。	○	○	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個性を大切にし、身だしなみを整える支援を行っている。	/	/	/	食べこぼしなどの衣服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員はさりげなく利用者に伝え、居室に移動して着替えてもらったり、口元の汚れを拭いたりするなどのフォローをしている。また、重度な利用者にも毎日着替えてもらうほか、定期的に訪問美容等を利用して髪型を整えてもらうなど、本人らしさが保てるような支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	足りない物は家族に持参して頂いてる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい方に関しては、家族などの意見も取り入れている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出の際はおしゃれ着等把握し、それを進めてみる時もある。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	出来る限り周りに気づかれないよう配慮している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	現状あまり行けていないが、本人様、家族様があれば、それに沿うようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族等にも協力してもらい本人様の状態を把握しながら支援している。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さを十分理解した上で提供している。	/	/	/	業者の配食サービスを利用し、事業所内で炊飯と汁物を調理し、湯煎や盛り付けをして、利用者に食事を提供している。利用者に、汁物に入れる具材や野菜などの下ごしらえ、食器やお盆拭きなどを手伝ってもらっている。業者の栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成するとともに、季節の行事食や誕生日、利用者の状況の変化など、その時々に合わせて食事の内容のほか、ムース食や刻み、トロミなどの食べやすい食の形態などを職員間で話し合いをしている。節分の際に、豆を煎ったり、誕生日にプリンを用意してデコレーションをしたり、秋に芋炊きを囲むなど、利用者と一緒に考えながら、少しでも食事が楽しみになるような工夫をしている。また、月1回お寿司の日のほか、月2回程度カレーの日を設けるなど、配食サービスを止めて、利用者と一緒に調理をしている。食欲が落ちた利用者には、配食を止めて、事業所で卵焼きなどの簡単に調理できる食事を提供するなどの対応をしている。茶碗やお箸などの食器類は、入居時に利用者に持参してもらうほか、職員が誕生日にプレゼントした食器を使用するなど、利用者の状況に応じた使いやすい物を使用している。食事前にはリビングに利用者が集い、盛り付けや配膳する職員の様子が見られ、待ち遠しそうな雰囲気を感じることができた。食事の際に、テレビを消して、食事に集中したり、会話を楽しむことができるように配慮している。以前は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染対策もあり、職員は見守りと介助を行い、現在は利用者と別々に食事をしている。今後は、感染対策に気を配りながら、季節の行事食や誕生日などの際に、利用者と一緒に食事が摂れるような工夫が行われることも期待される。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理、後片付け等は利用者と共にする時があるが献立は業者から届き、食材選びは職員が行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る方に関しては、積極的にお願いしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	ミーティングやケアカンファレンス等を通じて把握に努めている。契約時にアレルギーの確認を行っている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	苦手なものやアレルギー等は、季節感や旬の食材を取り入れ代替献立を実行している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	健康状態を考慮しながら調理方法を変えたり、時には医師・看護師に相談し提供している。一方でまだ不十分な点もある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人に合った物を使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ感染予防のため職員は同じ食卓を囲んで食事はしていない。見守りは行っているがさりげなく	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	声掛けや会話の中で、献立を伝えるなど行っている。	/	○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	ある程度の確保は出来ているが、一人一人正確に実施出来ているかは、改善の余地がある。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が少なく、食べれない時などは栄養補助飲料などを摂取してもらう時がある。水分に関しては、1回に飲む量を減らし数回に分けたり、おやつなどを利用し、水分の多いおやつなどを提供し工夫している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	献立は業者に任せている。定期的な話し合いは行っていない。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材はその日のメニューで使い切るよう努めている。また、調理器具は漂白剤等を使用し消毒を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は常に周知し日々のケアに努めている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は居室にある洗面台で、歯磨きを実施している。介助の必要な利用者の口腔内の状況を把握することができているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の状況までは把握することができておらず、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を把握し、アセスメントシートなどに口腔内の健康状態を継続して記録に残していくことも期待したい。また、痛みの訴えのほか、出血などの異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	毎月のケアの中で一人一人口腔内の状況を常に観察し把握に努めているが、把握しきれてない部分もある。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	トラブルがあったのみ受診している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	必ず手袋着用し清潔かつ丁寧にできるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケアも出来る所は自立にしてみたい、出来ない所を手伝うようにしている。また、口腔内のチェックは定期的な実施。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄に関して、極カトイレでの排泄を促し声掛け・誘導をしている。よって自立での排泄に繋げている。	/	/	/	定期的に、排泄に関する会議を実施し、利用者の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を検討している。また、事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援しているが、ほとんどの利用者は紙パンツを履いて生活を送っており、尿取りパッドなどを合わせて使用する工夫をしている。中には、希望に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、排泄用品の使用や変更時には、家族に相談して、了承を得た上で使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	便秘により、不穏の状態になりやすいことは理解しているが、全部把握できていない部分もある。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	本人の排泄のパターンを把握し、量や間隔が乱れたらすぐに対応策を取っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ケアカンファレンス等を通じて常に見直し、本人の視点でのケアに努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄に対し、職員のちょっとした気づきや改善点を見つけ職員間で情報を共有し、改善に向け取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	尿意や便意の有無に関わらず、本人の羞恥心に配慮しながらある程度排泄の間隔が空いた場合、トイレの声掛けをし誘導している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	おむつ等に関しては職員がその人に合った物を選んでいますが、本人や家族と話し合い支援しているまでは至っていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	基本的にはほぼ変わらないが、その日の状態を使い分けている部分はある。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食物繊維を摂ってもらったり、体操なども取り入れてはいるが、毎日とは出ていない現状がある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	希望や習慣に沿って入浴は現状出来ていないが、清潔保持の為、週2~3回を目標に入浴してもらえよう努めている。	◎	/	○	夜勤の職員が、利用者の様子や入浴状況を確認しながら、その日に入浴する利用者を決定している。10時からと14時からの1時間程度の時間帯に、週2~3回利用者は入浴することができる。その日の入浴順は、利用者と相談して決定をしている。また、入浴対応の可能な時間帯であれば、利用者の希望のほか、汗をかいた場合などに入浴することもできる。さらに、浴室にはシャワーチェアや移乗台などが置かれ、利用者が気持ち良く入浴できるよう支援している。さらに、浴槽の縁や浴槽内に滑り止めマットが設置され、利用者が安全に入浴できるよう配慮も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	体調も考慮しながら極力ゆったり入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自立を促し、出来ない所をサポートしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	まず入りたくない原因を探り、それに応じた声掛けや誘導を行っている。拒否が強い場合は無理に進めない。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前はバイタル測定及び検温、状態観察や声掛け等で見極めているが入浴後特に変わらなければバイタル測定は行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	ほぼ毎日同じサイクルで就寝・起床をしているので把握している。	/	/	/	事業所には、主治医の判断で眠剤等を服薬している3名の利用者があるものの、体操や散歩などの日中の活動量を増やすなどの対応を行い、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。管理者や職員は、「薬は少ない方が良く、足を取られることの方が心配である」と考え、利用者の状態を報告して主治医に相談し、極力薬を使用しないように努めている。中には、夜間眠れない利用者もあり、一緒に職員とリビングで過ごしたり、コーヒーやおやつと一緒に食べたりするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因は様々で、原因を模索し解決に向け取り組んでいる。例えば便秘で不眠なら、それを解消する運動をするなど。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	基本は日中の活動を積極的に取り組むなど、夜間の睡眠につながるよう努めている。また、必要時に応じてDrに相談をし支援を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠等見受けられた場合は、声掛けを行い状態を見て休息してもらうようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人自ら電話したり、手紙のやり取りなどほとんどできていない現状がある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	積極的にはあまり出来ていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	本人の希望があればしてもらうがこちらから促すことはあまり出来ていない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人にすぐに渡し読んでもらっている。また、発語等ない方などは職員が代読して伝えている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人が電話をかける事について理解、協力してもらう方もいるが、現状出来ていない方もいる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	本人がお金を所持している人がいない為、大切さは理解しているが使う機会があまりない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物する際にほとんど近くのスーパーやホームセンターなど利用している為、協力を得ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	買い物をする際はほとんどが近隣のスーパーやホームセンターなど利用している為、理解、協力を得られている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	欲しいものがあれば、使えるように支援しているが所持は現在の所してもらっていない。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	お金の管理については金庫にて保管している。家族にもその旨を周知している。また、入金があれば預かり書を家人様用、グループホーム用を準備している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	本人や家族のニーズに耳を傾け、出来る限りそれに対応出来るよう取り組んでいるがコロナ、インフルエンザ感染予防のため、出来ていない部分もある。	◎	/	○	感染対策で難しいこともあるが、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で、柔軟に対応している。また、利用者が家族と一緒に外出できるよう支援している。さらに、病院の受診対応は家族にお願いしているが、家族が同行できない場合には、職員が同行支援するなどの対応をすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日中は施錠せず、いつでも気軽に出入りが出来るようになっている。また、季節あった色どりの花を玄関に植えている。	◎	◎	◎	事業所にはゆったりと来訪者が駐車できるスペースが設けられ、車で来訪しやすくなっている。また、玄関前にはスロープが設置され、花壇にチューリップなどの花を植えるなど、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	台所や食堂、浴室は家庭的な雰囲気になっている為、使いやすいようにしている。また、居室は馴染みの物があつたり、殺風景にならないようにしつつ、安全にも考慮している。玄関、トイレ、廊下は安心して使用できるようにしている。	○	○	○	共用空間は整理整頓され、掃除や換気が行き届き、風通しの良い快適な空間となっている。窓際には、家族から利用者の誕生日プレゼントに送られた花束が飾られていた。また、リビングには畳スペースが設けられ、洗濯物が干されるなど、家庭的な雰囲気も感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日早出・遅出が清掃を行い、清潔を保持している。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	壁に季節が分かるように絵や写真を飾っている。皆さん花が好きなので、季節を感じる花を飾っている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	十分に配慮し、落ち着いて過ごせる空間を提供している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	生活歴や話から、使い慣れた物や好みの物を置いたりして居心地良く過ごしてもらっている。	◎	/	/	○	居室にはベッドや洗面台、エアコンなどが備え付けられている。中には、転倒防止のために、クッション素材を敷きつめている居室も見られた。また、寝具はリース対応となっているが、使い慣れた枕を継続して使用している利用者もいる。さらに、レクリエーション時に作成した作品を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んだりするなど、居心地の良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室には表札があり自分の居室が分かるようになっている。歩くスペースは常に物が落ちてないか気にしながら配慮している。	/	/	/	○	廊下には手すりが設置され、極力物を置かずに整理整頓が行われるなど、利用者が移動しやすい動線を確保している。また、利用者の目線に合わせて、トイレの表示を2段階で設置するなどの工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	安全面も考慮していつでも取れるものと手に取れない物を分けている。(取れる物TVのリモコン等)	/	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	夜間帯は防犯の為、施錠しているが日中はユニットの出入り口を施錠し安全対策を取っている。	◎	◎	○	管理者や職員は、日中に玄関やユニットの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。玄関は6時から21時まで施錠をしておらず、夜間は防犯のために施錠をしている。2階ユニットの入り口は、利用者の階段からの転倒防止のために日中にも施錠をしているが、職員の人員配置に余裕のある場合には開放をしている。また、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は来訪者や利用者等の出入りが分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	家人との話し合いは行っていない。	/	/	/		/
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報をファイリングし全スタッフが確認し助助を行っている。また、分からない時はその都度確認している。	/	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い、少しでも普段と違う場合バイタルを測定し数値の状態を言葉等を必ず記録している	/	/	/		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があればNsに報告している。必要に応じて相談、指示、アドバイスももらっている	/	/	/		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	情報をファイルをまとめておりスタッフ全員で確認したうえで受診をしている。医療機関については基本かかりつけ医に、また家人が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	/	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の希望を聞いた上で主治医に伝えている。	/	/	/		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	受診後、家族に電話し報告する時もあるしある時もある。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は、個人ファイルを持参して、伝えている	/	/	/	事業所では、「みとり介護指針」を整備し、入居時に、家族等に説明をしている。利用者の状態の変化に応じて、管理者または計画作成担当者が同席して、主治医から家族に状況を伝えてもらい、意向を確認している。利用者や家族が事業所での看取りを希望する場合には、職員間で方針を共有するとともに、主治医と訪問看護、職員等とのチーム体制で支援に取り組んでいる。また、日々の申し送りの中で、こまめな情報共有が図られている。さらに、職員は夜間等の状態悪化時の連絡方法を理解するとともに、夜勤の職員等が不安な場合には管理者に連絡できる仕組みも構築されている。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診した際入院した方の現在の情報を聞く様になっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週1回NSIによる健康チェックを行い、何かあれば相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医に電話で相談できる体制をとっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	△	全スタッフで入居者様の状態を把握し、それを職員間で共有し、すぐに受診できる様に努めているが医療機関が休日などの対応については不十分な所がある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	必ず薬を確認し、何の薬なのか、また注意点に関しても確認、対応している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬防止の為、朝昼夕で色分けを行い、飲み忘れがないか必ず2名で確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	食事量や排泄に関しては一人一人記録にまとめ変化があればすぐに分かるようにしている。また、少しの変化でも記録に残し必要時hDrに相談している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	面会時等に家族と情報を共有し、家族との話し合いを行い意向確認をしているが、出来てない部分もある。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医等から得た情報を家族はもちろん職員間でも話し合いを行っている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	現状でできる支援が出来るように、職員間で情報を共有しあっている。また、不安などあれば職員の思いを聞き対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	面会時や電話等にて家族に十分な説明を行い、実施している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医とは常に連携を取っており、万が一に備え準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族やかかりつけ医とは常に連携を取っており、万が一に備え準備を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内で定期的に勉強会を開催している。予防接種もやっている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	定期的に勉強会を開いているが、実際に訓練としてあまり行っていない部分もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	主治医・行政等から発生状況を聞いたり情報を頂いたりしているが、対策面では不十分な部分がある。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	主治医・行政等から発生状況を聞いたり情報を頂いたりしているが、対策面では不十分な部分がある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の面会の際など近況報告もお伝えしている。	/	/	/	以前は、家族が参加協力して行事を開催することができていたが、感染対策もあり、現在は交流を自粛している。感染対策も緩和され、事業所内での面会や家族との外出も可能となり、利用者や家族に喜ばれている。管理者は、「感染対策を考慮しながら、以前のように行事を実施していきたい」と考えており、今後は、家族間の交流が図られるような行事の企画をしていくことも期待される。また、2か月に1回、事業所便り「ゆるりん」を発行し、事業所の行事などの報告をしている。家族には、利用者の健康状態や生活状況などの報告が中心で、事業所の出来事や職員の入退職までの報告は行われていない。家族が来訪する機会も少なかったこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、家族に職員の異動を報告したり、運営推進会議等の中で、職員の入退職や入れ替わりのないことを伝えたり、事業所の出来事を報告するなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナやインフルエンザ感染症のため、ほとんどできていない。	×	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会の際、柔らかい表情で挨拶を行っている。	/	◎	/		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	×	個人情報の確認、これまでの生活歴を元に今の状態を家族に伝え、対応方法を確認している。	/	/	/		
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	ゆるりん(ホーム便り)利用者の写真や文書を読んでもらい、ホームでの生活や出来事、日常の様子などを知ってもらえている。	/	×	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	知りたい事や不安に感じている事があれば相談を受け、その都度対応している。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来所持に定期的に生活状況の報告し、世間話をし信頼関係を築いている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に具体的な説明を行い、理解、納得してもらうよう努めている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に具体的な説明を行い、理解、納得してもらうよう努めている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人に対しては、行事や運営会議等で説明し、理解を得ている。	/	○	/	事業所として自治会までは加入していないが、地元の婦人会との交流があり、事業所の花壇に花を植えてくれたり、地域の秋祭りには、神輿や囃子などが来訪してくれるなど、地域との交流を継続している。感染対策の緩和に伴い、少しずつ、職員と利用者が一緒に地域の奉仕活動や催しなどに参加していくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナ感染予防のため、地域活動への参加については現状ほとんど行っていない。	/	△	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてきている。	△	増えているとは言えず支援してくれている方はいるが、減少傾向にあると思われる。	/	/	/		
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ感染予防のため、立ち寄る事はほとんどない。	/	/	/		
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	以前はあったが、コロナ感染予防のため、ほとんど出来てない。	/	/	/		
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	婦人会な方に花植えなど協力をお願いしている事のとどまっている状況、コロナ他感染症の状況や時期を見て読み聞かせやボランティアにも声をかけて行きたい。	/	/	/		
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	消防は避難訓練等を通じて交流がある為、協力や理解を日頃から得られている。近くのスーパーは食材をお願いしている事もあり、理解を得ているが出来てない部分もある。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方、家族様は比較的参加してもらっている。	×	/	△	感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、集合形式の会議が開催できるようになっている。また、会議には利用者や家族のほか、民生委員、市担当者等の参加を得て会議を開催している。会議には、一部の家族しか参加していないため、全ての家族に外部評価のサービスの評価結果や取り組み状況のほか、話し合われた内容などを周知していくことも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	外部評価の内容は伝えていない。	/	○	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーはほぼ固定ではあるが、積極的に家族の参加を要請しているものの現状は、あまり参加してもらえていない。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念である「安全」「安心」「生きがい」を常に上げて利用者の日々の暮らしを支援している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	いつでも見える位置に提示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的に運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	介護福祉士試験等の資格取得のため、研修参加費の一部助成がある。それ以外は研修等については積極的に参加してよう周知している。	/	/	/	法人の規模は大きく、代表者の来訪は年1回程度に留まっているが、定期的にブロック長の来訪があり、管理者等から事業所の様子や意見を聞くことができる。約1年9か月前に、経営が移管されたことに伴って管理者は交代したものの、職員は継続雇用され、良好な関係が築かれている。また、職員は管理者やユニットリーダーに意見等を伝えやすい環境が整備されている。さらに、福利厚生も充実され、職員の誕生日には、法人から金一封が支給されるようになっている。職員の聞き取りから、「介護業界の人材不足は事業所でも直面しており、利用者のためにも、ゆとりある支援を行いたい」との話も聞かれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	細かい指導や学習についてはまだまだ改善すべき点があるのと、その余裕がない現状もある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員には特別手当や各資格手当の支給がある。また、スタッフ会議にて、各手当等の説明を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	地域密着連絡会は参加出来ているが、他主催の勉強会には参加できていない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ブロック長が定期的に顔を出し、職員の思いや意見を直接聞き対応している。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会があれば、研修内容を貼りつけて、職員に情報を伝えている。施設内研修でも学んでるが十分とはいえない。	/	/	○	管理者や職員は、虐待や不適切なケアがどのような行為が該当するかを理解している。職員同士で注意し合える関係までには至っていないが、スピーチロックなどの不適切な言動が見られた場合には管理者に報告するとともに、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。また、利用者の方に留まらず、家族に対する言葉遣いや状況報告書などを行う際にも、管理者や計画作成担当者は気を配っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	話合う事はあるがそういう場を作るのが少ない。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	虐待や不適切ケアが無いように意識し、職員が互いに注意を払うよう促している。対応手順に関しては、定期的に確認している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止に関する指針に基づき、職員には説明、理解を得ている。また、施設内研修にて年2回、教育、研修を実施	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束にあたる行為を十分に理解し利用者様の状況に照らし合い、協議検討を重ねている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束にに関しては資料を活用しており家族様にも見てもらい、その上でどのようなリスクがあるか説明対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	制度については利用しては利用している方がおり、制度を理解しているがまだまだ学ぶ必要がある。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	専門機関に連携を図り、円滑に行えるようにしている部分もある。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	細かい指導や学習についてはまだまだ改善すべき点があるのと、その余裕がない現状もある。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師等と連携を図り、実践力を身に付けてはいるが、定期的に行えていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハットを作成しリスクや危険について情報共有し事故防止に努める。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ちょっとした事でもヒヤリハットを作成し、リスクや危険について検討を行い事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはあるが見る事はあまりない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談内容の記録の項目に沿って出来事を記入しスタッフ会議でも報告。必要時はユニット内でも話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば苦情相談内容を記録項目に沿って記入しスタッフ会議で報告し必要時はユニット会議でも報告している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	面会等で意見や要望があれば伺っているが、その事に機会までは作れてない。	◎	/	○	日常生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、柔軟に対応をしている。家族には、面会時や受診同行支援時等を活用して、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞くようにしている。以前に、受診時の状況報告書を見て、家族の表情が変わったことがあり、職員の記録方法を「○○ができない」などの否定的なことを記載することなく、できることを記録に残すなど、職員への周知徹底も行われている。また、会議などの機会を通して、管理者等は職員から意見を聞く機会を設けるとともに、日頃から職員に声をかけて気軽に意見を伝えてもらうなど、良好な関係を築いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には重要事項説明書にて説明しているが、あまり情報提供を適宜に行えていない、	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ブロック長が定期的に顔を出し、職員の思いや意見を直接聞き対応している。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議参加者が全員発言してもらう仕組みを取っているまた、ユニット会議では利用者一人一人に担当者をつけ担当者中心となり意見交換をしている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	キャリアパスシートで年1回以上自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	経営が移管されてから、初回の外部評価で、家族等にはサービスの評価結果を伝えることができておらず、今後の運営推進会議等を活用して伝達することを予定している。今回の評価結果は、会議の中で報告をするほか、家族に対して、事業所便りや事務連絡などを活用して、簡潔に取りまとめて報告するするなど、周知方法を検討していくことも期待される。また、サービス評価の取り組みの意義や目的を周知したり、評価結果の意見をもらったり、目標達成計画の取り組み状況のモニターを呼びかけて実施してもらうなどの取り組みが行われることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	目標達成計画書を作成していない。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	報告を行っていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取り組みや確認の成果の確認を行っていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	訓練を行う際、マニュアルを確認し実施しているが、マニュアルを見直す必要がある。	/	/	/	各種マニュアルを作成し、年2回火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施している。各居室の入り口には、災害時避難のための赤テープの印を付けて、災害発生時に避難の状況が分かりやすいように工夫をしている。以前は、近隣住民と一緒に合同訓練を実施することもできていたが、地域の高齢化に伴い、「訓練の参加協力は難しい」と言われている。地域住民の協力支援が難しいことから、再度、地域の防災訓練に参加協力したり、運営推進会議を活用して、地域住民と話し合いをしたり、法人内での協力支援体制を強化するなどの取り組みが行われることも期待される。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対して、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、来訪時に避難訓練や災害の備えを伝えたり、事業所便りを活用して、訓練の様子を伝えたり、事業所内に訓練の様子の写真を掲載するなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練に関しては、年1回消防士立会いの元実施したり、状況を想定した避難訓練を行っているが以前は地域や市の避難訓練にも参加していた。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	訓練に関しては年に1度消防士立ち合いの元、実施しているがそれ以外は行っていない。消火器点検は設備会社が定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練の際、消防署と話す機会はあるが十分とはいえない。必要時は情報を頂いている。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署とは密に連携を図っているが、地域住民、近隣、他事業所等の協力体制はあまり確立されていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けての情報発信や活動は、積極的に取り組めていない部分がある。	/	/	/	入居などの電話相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。感染対策で協力を中止していたが、令和6年度から高校の実習生の受け入れの再開を予定している。また、外国人の技能実習生等の受け入れに協力をしている。さらに、市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修に参加する機会は少ないものの、連携を図れるように努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば相談を受け付けている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所の行事での交流はあるが、地域の方が集う場所としての解放及び活用は行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍で実習生の受け入れは出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	現在の所、あまり行っていない。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 4 月 8 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890400140
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 優瑠里 Bユニット
記入者(管理者) 氏名	橘井 義浩
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>介護の現場に「安全」「安心」「生きがい」を提供し社会に貢献できる企業を目指します。開放的で情熱的自由で透明性が高い挑戦できる会社を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>外出支援や外にでる機会を増やす事を目標にしていたが、コロナ感染症の拡大感染防止から外出の機会を増やす事もなく自粛となった。また、令和4年年末から令和5年年始にかけて施設内にコロナ感染者が増え通常、勤務が出来ず職員確保も困難な状態であった。感染者がいなくなった後は、婦人会の協力を得て、花壇の花植えや近場での外出、ドライブ、施設内の行事も出来る範囲で行っている。前任者の目標について、地震、火災、津波のマニュアル作成については取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>国道から少し離れた住宅街にあるみかん畑に隣接している事業所は、2度の経営移管が行われ、令和4年7月から現在の法人が経営をしている。法人移管前から職員は継続雇用され、長年勤めていた職員が新たに管理者に就任し、以前と変わりなく、利用者の穏やかな生活が送れるよう支援することができている。管理者は、利用者の意思を尊重しながら、「楽しく笑顔で過ごす、優瑠里で過ごせて良かった」と思ってもらえるように、職員と一丸となった支援が行われている。職員の聞き取りから、「笑顔で対応し、利用者の話を聞く時間を大切にしたい」と話を聞くことができた。また、地域の婦人会に、事業所の庭に花を植えてもらうなど、定期的に、地域との交流が図られている。さらに、家庭的な雰囲気の中で、利用者が好きなことをしながら、自分らしい生活が送れるような支援にも取り組んでいる。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	声かけや昔話をする事で把握するよう努力している。	◎	/	◎	日常生活の中で、職員は利用者へ声をかけ、思いや意向等の聞き取りをしている。利用者の表情や行動に変化が見られた場合には、リビングや居室でゆっくりと話を聞き、柔軟に対応をしている。把握した内容は記録に残し、職員間で情報を共有している。また、面会時に、家族から希望や意向を聞くようになっている。さらに、思いを言い表しにくい重度の利用者には、家族から情報を聞くとともに、利用者の表情やしぐさなどから、思いをくみ取るよう努めている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人視点で検討しているが職員視点で考えている時が多い。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会や更新時のみに行っていない。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録にはこまめに記入する様に日々の申し送りをしている。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日々の業務に追われて向き合う事が不足している。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居当初はできているが少しずつ話をする機会が減ってきている。	/	/	◎	入居前に自宅を訪問し、管理者等は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者や担当の介護支援専門員から情報を聞くこともある。また、病気などの医療関係の情報は、主治医から情報収集をしている。さらに、日常生活の中で、職員は声をかけ、利用者や昔話などをしながら、新たな情報を聞いて把握し、職員間で共有をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	色んな作業をして頂き、できる事を把握している。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りや記録に残す事で周知できている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス時に検討している。	/	/	◎	入居前に得た情報は職員間で共有をするほか、入居時に担当者会議を開催し、利用者や家族、職員等を交えて話し合い、利用者本人の視点で、課題やより良いサービスを検討している。また、定期的に利用者の状態を確認し、その時々で何が必要かどうかの検討も行われている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	カンファレンス時に検討している。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプラン更新時に本人の意向を確認している。	/	/	/	日常生活の中で、利用者から意見や意向を聞くほか、面会時や電話連絡時に家族の希望等を確認し、職員の意見やアイデアを取り入れながら、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、主治医や訪問看護から指示や意見をもらい、計画の中に反映している。計画作成担当者は家族の意見の引き出し方に苦慮しているが、「今後は、具体的な質問方法を取り入れながら、確認をしていきたい」と考えている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	今後家族や関係者等にも話を聞きたい。カンファレンスで検討している。	◎	/	/	○		
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	何が出来るを考え職員が一緒に行っている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ感染防止目的、地域や家族の協力体制が少ない。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスに参加し作成し計画書に目を通している。	/	/	◎	ユニットごとに、全ての利用者の介護計画がファイルにまとめて綴じられ、職員はいつでも確認できるようになっている。また、計画のサービス内容などに沿った介護記録のほか、申し送りノートに記録を残すようにしている。特に、「浮腫が強くなっている」などの病状変化は申し送りノートに記録を残し、職員間で情報共有をできるようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	各担当職員がモニタリングを行っているが担当以外は確認できていない場合もある。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	モニタリングやカンファレンス時に行っている。	/	/	○	介護計画は6か月に1回見直しをしている。入居して間もない利用者には、1～2か月で計画の見直しを行い、その後は6か月で評価を行い、計画の見直しをしている。月1回程度、担当職員がサービス提供状況を確認して評価を行い、利用者の現状を確認して記録に残している。また、軽微な状況の変化は職員間の申し送りに対応するほか、骨折や退院後には1か月程度の利用者の経過観察をした後で計画の見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。さらに、認知症状の悪化等による区分変更時には、その都度計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	現状は明らかな変化があった場合は確認できているが現状はできていないため、状態変化がなくても担当者が責任を持ち行う必要がある。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	情報共有は行っているが、見直しは出来ていない。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	カンファレンス時に話し合いをしている。	/	/	○	月1回スタッフ会議とケアカンファレンスを実施し、情報共有をするほか、利用者の状況の確認をしている。転倒等の緊急案件が生じた場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、話し合われた記録を残し、全ての職員に回覧をしている。また、軽微な出来事は、日々の申し送りや業務日誌等を活用して、情報を共有している。さらに、会議に参加できなかった職員には、管理者等から口頭で報告するほか、会議録を閲覧する仕組みづくりをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者が中心となって各職員が意見をまとめている。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	スタッフ会議は管理者が行っており、ケアカンファレンスは担当者が行っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	業務連絡ノートを使用しているが、それでも伝達できていない事もある。	○	/	○	業務日誌や申し送りノート、伝達しなければならない情報を書き留めたシートを活用して、日々の申し送りを実施し、職員間の確実な情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	外出する機会も少なく同じ事を繰り返す日々になっているため、希望を聞き出来る限り極力するようにあいたい。	/	/	/	毎日の着替えの際に洋服を選んだり、水分補給時の飲み物を選択したりするなど、職員は利用者に声をかけ、自己決定できる場面を多く作るようにしている。また、職員は「○○しませんか」などの声をかけ、意向が確認できるような具体的な問いかけを心がけている。時には、職員が利用者の好きな歌を耳元で歌唱すると笑顔が見られるなど、趣向に応じた個別の支援も行われている。訪問調査日には、野菜の下ごしらえに真剣に取り組む利用者の様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	水分を促す際、何を飲みたいか決めてもらっている。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	昼寝をしたり、でリビングで過ごしたり自由に過ごされている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフもまっじて風船バレーもしたり、レクリエーションに参加している。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情・声かけて把握するように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	遠くから大きな声で声かけする事があるので配慮不足と感じる事もある。	◎	○	○	定期的に、事業所内研修を実施し、人権や尊厳、プライバシーなどを学んで理解し、職員は利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度を心がけた支援に努めている。研修実施直後には、職員は意識した声かけなどを支援することができているが、業務が多忙の際に、職員間で大きな声かけをしてしまう場合も見られる。また、今回の外部評価の自己評価を職員と一緒に実施したことで、職員の振り返りや意識づけにも繋がりと、職員が居室に入居する際に、声かけをして了承を得てから入室するとともに、不在時にも、事前に「掃除に入っていますか、洗濯物を入れますね」などの声をかけてから、意識して入室できるようになってきている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	必ず扉を開けて介助するよう配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	利用者様が居室不在の時にノックして入室等ができていないと思う。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報は外へ持ちださないよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	昔話を通じて学ぶ事は多々ある。	/	/	/	男性の利用者同士が、言い合いで口げんかをすることもあるが、職員が早期に間に入り、話を聞くなどの落ち着いてもらえるような対応をすることができている。また、職員は利用者の性格や関係性を把握し、配席の考慮をするなどの早めの対応をしている。さらに、トイレに行こうとする車いすの利用者に、他の利用者が車いすを押すことを手伝ったり、手をつないで一緒に歩いたりするなど、利用者同士が支え合う場面も見られ、職員は見守りや注意を払っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	協力して作業するよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	座席の配慮を検討し気の合うどうし、コミュニケーションが図れるようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	発生しそうな際職員がその場に入っている。ヒヤリハット記入し周知に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日常会話から知ることで把握できている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	受診以外の外出はほとんどできていない状態。外出が難しい場合は花壇や駐車場での日光浴も検討している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナウイルス感染防止のため、希望に沿っていない。	○	△	○	定期的に、外出レクリエーションの計画を立てて、ドライブをして季節の花を見に行くなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、日常的にも、近隣の公園に出かけて外気浴をしたり、事業所周辺を散歩したりすることもできている。さらに、庭先で草引きをしたり、地域の婦人会の協力を得て花を植えてもらい、水やりなどをすることもできている。加えて、重度の利用者にも、日中にホールに出て過ごしてもらい、窓から吹き込む外気を感じながら生活を送れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	受診以外ほとんど外出していない状態だが、外出が難しい場合は花壇や駐車場日光浴を検討している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	スタッフ会議時の勉強会で認知症についての勉強会はしているが言葉遣いや悪い場面も見られる時がある。	/	/	/	足踏み体操やラジオ体操を実施したり、数字盤やパズル、カルタなどの得意な脳トレやレクリエーションを取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持や向上を図れるよう取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者自身ができることは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	職員のそれぞれの意見を聞き、医師やNSと連携を図り、維持が図れるよう努めているが、理解を深める必要がある。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	得意な作業を勧め見守りつる。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	主婦の方は、洗濯量みや家事等を中心に行っている。	/	/	/	外出時に、化粧をしたり眉毛を書いたり、男性利用者に髭を剃ってもらうなど、利用者自身に洋服を選んで身だしなみを整えてもらい、少しでも楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、職員は利用者に声をかけて、洗濯物干しやたたみ、台拭き、調理の下ごしらえなどの役割を担ってもらい、少しでも張り合いのある生活が送れるよう支援することができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	花が好きの方は、花壇等で作業を行っている。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	3か月に1度訪問美容を利用している。	/	/	/	食べこぼしなどの衣服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員はさりげなく利用者に伝え、居室に移動して着替えてもらったり、口元の汚れを拭いたりするなどのフォローをしている。また、重度な利用者にも毎日着替えてもらうほか、定期的に訪問美容等を利用して髪型を整えてもらうなど、本人らしさが保てるような支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	足りない物は家族へ連絡し持参して頂いてる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定しにくい利用者様に関しては、家族等などの意見も取り入れいる。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	×	外出する事が少なく服も普段と変わらない。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	髪をといたり、食後は口の周りを拭く等の介助を行っている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば行きつけへ家族と行って頂いてる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族にも協力して頂いてる。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解した上で提供している。	/	/	/	業者の配食サービスを利用し、事業所内で炊飯と汁物を調理し、湯煎や盛り付けをして、利用者に食事を提供している。利用者に、汁物に入れる具材や野菜などの下ごしらえ、食器やお盆拭きなどを手伝ってもらっている。業者の栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成するとともに、季節の行事食や誕生日、利用者の状況の変化など、その時々に合わせて食事の内容のほか、ムース食や刻み、トロミなどの食べやすい食の形態などを職員間で話し合いをしている。節分の際に、豆を煎ったり、誕生日にプリンを用意してデコレーションをしたり、秋に芋炊きを囲むなど、利用者と一緒に考えながら、少しでも食事が楽しみになるような工夫をしている。また、月1回お寿司の日のほか、月2回程度カレーの日を設けるなど、配食サービスを止めて、利用者と一緒に調理をしている。食欲が落ちた利用者には、配食を止めて、事業所で卵焼きなどの簡単に調理できる食事を提供するなどの対応をしている。茶碗やお箸などの食器類は、入居時に利用者に持参してもらうほか、職員が誕生日にプレゼントした食器を使用するなど、利用者の状況に応じた使いやすい物を使用している。食事前にはリビングに利用者が集い、盛り付けや配膳する職員の様子が見られ、待ち遠しそうな雰囲気を感じることができた。食事の際に、テレビを消して、食事に集中したり、会話を楽しむことができるように配慮をしている。以前は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染対策もあり、職員は見守りと介助を行い、現在は利用者と別々に食事をしている。今後は、感染対策に気を配りながら、季節の行事食や誕生日などの際に、利用者と一緒に食事が摂れるような工夫が行われることも期待される。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	ご飯、味噌汁以外は外注しているが、野菜の皮むき、切る作業を出来る利用者様に手伝ってもらっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	後片づけを手伝って頂いてる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	情報提供書みて把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	×	外注利用のため、現状はできていない。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	機能を考慮しながら提供しているが家族等の説明が不十分な所もある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	苦手な物アレルギー等は、季節感や旬の食材を取り入れ代替え献立を実行している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナウイルス感染拡大の理由から、一緒に食事はできていない。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	「今日はお魚です」等の会話でメニューを伝えている。	/	○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	希望通りに提供しているが適正かどうか分からない。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	ラコールを処方して頂いてるが水分に関しては嫌がる方もおり工夫する必要がある。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養に関しての話し合いは行っていないため、今後は検討していきたい。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	×	毎日1回消毒はしているが不十分と感じる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は常に周知し、日々のケアに努めている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は居室にある洗面台で、歯磨きを実施している。介助の必要な利用者の口腔内の状況を把握することができているが、自分で歯磨きができる利用者の口腔内の状況までは把握することができておらず、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を把握し、アセスメントシートなどに口腔内の健康状態を継続して記録に残していくことも期待したい。また、痛みの訴えのほか、出血などの異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時確認を行っている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	トラブルがあったのみ受診している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の手入れは、清潔かつ丁寧にされている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	△	見守りを行っている。口腔内に異常があれば受診を検討する。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄に関して、極カトイレでの排泄を促し声掛け・誘導をしている。よって自立での排泄に繋がっている。	/	/	/	定期的に、排泄に関する会議を実施し、利用者の排泄状況に応じて、適切なパッドや紙パンツなどの排泄用品の使用を検討している。また、事業所では、利用者がトイレで排泄できるよう支援しているが、ほとんどの利用者は紙パンツを履いて生活を送っており、尿取りパッドなどを合わせて使用する工夫をしている。中には、希望に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、排泄用品の使用や変更時には、家族に相談して、了承を得た上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	便秘により、不穏の状態になりやすいことは理解しているが、全部把握できていない部分もある。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	本人の排泄のパターンを把握し、量や間隔が乱れたらすぐに対応策を取っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ケアカンファレンス等を通じて常に見直し、本人の視点でのケアに努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄に対し、職員のちょっとした気づきや改善点を見つけ職員間で情報を共有し、改善に向け取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	尿意や便意の有無に関わらず、本人の羞恥心に配慮しながらある程度排泄の間隔が空いた場合、トイレの声掛けをしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族との話し合いは出来ていないが職員間の話し合いで決定している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。		基本的にはほぼ変わらないが、その日の状態で使い分けている部分はある。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	薬に頼る事が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	希望や習慣に沿って入浴は現状出来ていないが、清潔保持の為、週2~3回を目標に入浴してもらえよう努めている。	◎	/	○	夜勤の職員が、利用者の様子や入浴状況を確認しながら、その日に入浴する利用者を決定している。10時から14時からの1時間程度の時間帯に、週2~3回利用者は入浴することができる。その日の入浴順は、利用者と相談して決定している。また、入浴対応の可能な時間帯であれば、利用者の希望のほか、汗をかいた場合などに入浴することもできる。さらに、浴室にはシャワーチェアや移乗台などが置かれ、利用者が気持ちよく入浴できるよう支援している。さらに、浴槽の縁や浴槽内に滑り止めマットが設置され、利用者が安全に入浴できるよう配慮も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	体調を考慮しながら、極力ゆっくり入っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はして頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	まず入りたくない原因を探り、それに沿った声掛けや誘導を行っている。拒否が強い場合は無理に進めない。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル測定を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録等を見て把握している。	/	/	/	事業所には、主治医の判断で眠剤等を服薬している3名の利用者があるものの、体操や散歩などの日中の活動量を増やすなどの対応を行い、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。管理者や職員は、「薬は少ない方が良く、足を取られることの方が心配である」と考え、利用者の状態を報告して主治医に相談し、極力薬を使用しないように努めている。中には、夜間眠れない利用者もあり、一緒に職員とリビングで過ごしたり、コーヒーやおやつと一緒に食べたりするなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。		眠れない原因は様々で、原因を模索し解決に向け取り組んでいる。例えば便秘で不眠なら、それを解消する運動をするなど。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	病状の相談のみを行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	傾眠等が見られた場合は声かけを行い状態をみて休息してもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自ら電話できない方もおられるため、職員が電話する事もある。手紙を頂く時が多い。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	積極的には行っていないため、今後は必要に応じた手助けをしていきたい。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人の希望があればしてもらうが、こちらから促す事は少ない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙は読んでいるが家族には伝えていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話をかける事については家族様には理解、お願いはしているが、家族等からはお願いはしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はできているが実践できていない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物にする際にほとんど、近くのスーパーやホームセンターに利用し協力を得ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	欲しいものがあれば、使えるように支援しているが所持は現在の所してもらっていない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	お金の管理については、1階のカギについた引出しに管理している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	利用者様のお小遣いとして現金をお預かりしている。家族様の同意を得て利用料と一緒に明細を出している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族のニーズに耳を傾けられる限り耳を傾けられる限り対応できるようにしてる。	◎	/	◎	感染対策で難しいこともあるが、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で、柔軟に対応している。また、利用者が家族と一緒に外出できるよう支援している。さらに、病院の受診対応は家族にお願いしているが、家族が同行できない場合には、職員が同行支援するなどの対応をすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	居室に表札があり、トイレには張り紙をしている。	◎	◎	◎	事業所にはゆったりと来訪者が駐車できるスペースが設けられ、車で来訪しやすくなっている。また、玄関前にはスロープが設置され、花壇にチューリップなどの花を植えるなど、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁面には月の担当者が季節を感じる事が出来る工夫をしている。	○	○	○	共用空間は整理整頓され、掃除や換気が行き届き、風通しの良い快適な空間となっている。窓際には、家族から利用者の誕生日プレゼントに送られた花束が飾られていた。また、リビングには畳スペースが設けられ、洗濯物が干されるなど、家庭的な雰囲気も感じられる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日早出・遅出が清掃を行い、清潔を保持している。	/	/	/		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	持ち帰りがあるため、できない時がある。	/	/	/		
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	十分に配慮し、落ち着いて過ごせる空間を提供している。	/	/	/		
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	生活歴や話から、使い慣れた物や好みの物を置いたりして居心地良く過ごしてもらっている。	◎	/	○	居室にはベッドや洗面台、エアコンなどが備え付けられている。中には、転倒防止のために、クッション素材を敷きつめている居室も見られた。また、寝具はリース対応となっているが、使い慣れた枕を継続して使用している利用者もいる。さらに、レクリエーション時に作成した作品を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んだりするなど、居心地の良い空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室には表札があり、歩くスペースには常に物がなにか確認を行っている。	/	/	/	○	廊下には手すりが設置され、極力物を置かずに整理整頓が行われるなど、利用者が移動しやすい動線を確保している。また、利用者の目線に合わせて、トイレの表示を2段階で設置するなどの工夫も行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	安全面も考慮し、いつでも手に取れる物と手に取れない物を分けている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	夜間帯は防犯の為、施錠しているが日中はユニットの出入り口を施錠し安全対策を行っている。	◎	◎	○	管理者や職員は、日中に玄関やユニットの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。玄関は6時から21時まで施錠をしておらず、夜間は防犯のために施錠をしている。2階ユニットの入り口は、利用者の階段からの転倒防止のために日中にも施錠をしているが、職員の人員配置に余裕のある場合には開放をしている。また、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は来訪者や利用者等の出入りが分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	家族様との話し合いは行っていない。	/	/	/		
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報をファイリングし、全スタッフが確認した上で介助を行っている。また、分からない時はその都度確認している。	/	/	/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い、少しでも普段と様子が違う場合、バイタルを測定し数値と状態、言葉等を必ず記録している。	/	/	/		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	様子等の変化があれば相談し指示を頂く様になっている。	/	/	/		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	情報をファイルにまとめており、スタッフ全員確認した上で受診している。	◎	/	/		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の希望を聞いた上で、主治医に伝えている。	/	/	/		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	定期受診で変化がない場合は特に何も無ければ、受診結果は報告していない。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には個人ファイルを持参し、伝えている。	/	/	/	事業所では、「みとり介護指針」を整備し、入居時に、家族等に説明をしている。利用者の状態の変化に応じて、管理者または計画作成担当者が同席して、主治医から家族に状況を伝えてもらい、意向を確認している。利用者や家族が事業所での看取りを希望する場合には、職員間で方針を共有するとともに、主治医と訪問看護、職員等とのチーム体制で支援に取り組んでいる。また、日々の申し送りの中で、こまめな情報共有が図られている。さらに、職員は夜間等の状態悪化時の連絡方法を理解するとともに、夜勤の職員等が不安な場合には管理者に連絡できる仕組みも構築されている。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診した際などに、入院した方の現在の情報等を聞くよう努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週1回看護師による健康チェックの際何かあれば相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	アドバイスももらっているが不十分の所もある。主治医(協力医)に夜間連絡先を聞いている。何かあれば指示がもらえる体勢。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	全スタッフで入居者様の状態を把握し、それを職員間で共有し、すぐに受診できる様に努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	面会時等に家族と情報を共有し、家族との話し合いを行い、意向確認をしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	誤薬防止の為、朝昼夕で色分けを行い、飲み忘れがないか必ず2名で確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	食事量、排泄については、一人、一人記録にまとめ変化があればすぐわかるようにしている。また、少しの変化記録に残し必要時にDrに指示をもらっている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	面会時等に家族と情報を共有し、家族との話し合いを行い、意向確認をしている。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医等から得た情報を家族はもちろんのこと、職員間でも話し合いをその都度行っている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	現状でできる支援が出来るように、職員間で情報を共有しあっている。また、不安などあれば職員の思いを聞き対応している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	面会時等に家族に十分な説明を行い、実施している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	面会時等に家族に十分な説明を行い、実施している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	どういった支援を行うか家族と話をし、家族の事情の考慮や精神面で不安に出来るだけにならないよう配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内で定期的に勉強会を開いている。主治医の指示に従い、予防接種を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	定期的に勉強会を開いているが、実際に訓練としてあまり行っていない部分もある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	行政等から発生状況の情報を頂いたりしているが、対策面では不十分である。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤後や外出後は、必ず手洗い・手指消毒を行っており、来訪者に対しても手指消毒をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の面会の際など近状報告を行い要素を確認している。	/	/	/	以前は、家族が参加協力して行事を開催することができていたが、感染対策もあり、現在は交流を自粛している。感染対策も緩和され、事業所内での面会や家族との外出も可能となり、利用者や家族に喜ばれている。管理者は、「感染対策を考慮しながら、以前のように行事を実施していきたい」と考えており、今後は、家族間の交流が図られるような行事の企画をしていくことも期待される。また、2か月に1回、事業所便り「ゆるりん」を発行し、事業所の行事などの報告をしている。家族には、利用者の健康状態や生活状況などの報告が中心で、事業所の出来事や職員の入退職までの報告は行われていない。家族が来訪する機会も少なかったこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、家族に職員の異動を報告したり、運営推進会議等の中で、職員の入退職や入れ替わりのないことを伝えたり、事業所の出来事を報告するなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	感染防止のためあまり出来ていない。	×	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族の方から、最近の様子を気軽に聞かれる事があったり、スタッフ側も伝えるようにしている。	◎	/	/		○
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	個人情報を確認。利用者のこれまでの生活歴を元に、今の状態を家族に伝え、対応方法を説明している。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	行事等は面会時に伝えるが、退職、異動等は報告していない。	/	×	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	面会時などに、お知らせする必要がある事は、文書も準備し、理解や協力を得よう努めている。また、中々面会に来れない方に関しては電話で伝えている。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	現在、宿泊は感染予防のため、看取り時のみにしか行っていない。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に具体的な説明を行い、理解、納得してもらうよう努めている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に具体的な説明を行い、理解、納得してもらうよう努めている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の人に対しては、行事や運営推進会議等で説明、理解を得ている。	/	○	/	事業所として自治会までは加入していないが、地元の婦人会との交流があり、事業所の花壇に花を植えてくれたり、地域の秋祭りには、神輿や囃子などが来訪してくれるなど、地域との交流を継続している。感染対策の緩和に伴い、少しずつ、職員と利用者が一緒に地域の奉仕活動や催しなどに参加していくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の人に対しては、行事や運営推進会議等で説明、理解を得ている。現在、感染症予防の為、地域行事の参加等は行っていない。	/	△	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	以前はあったがほとんどできていない。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	×	コロナ感染症防止もあるため、気軽に立ち寄りたり遊びに着たりできていない。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	△	行事の花植え等の時は来られるが、普段は少ない。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	婦人会の方の花植えなど協力をお願いしているにとどまっている状況、コロナ他感染症の状況や時期を見て読み聞かせやボランティアにも声をかけていきたい。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	傾聴ボランティアや認知症カフェや交流サロンなど様々な地域資源があるが存在把握及び活用ができていない。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方は比較的参加してもらっているが、利用者・家族についてはあまり参加をしてもらえていない現状がある。	x	/	△	感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、集合形式の会議が開催できるようになっている。また、会議には利用者や家族のほか、民生委員、市担当者等の参加を得て会議を開催している。会議には、一部の家族しか参加していないため、全ての家族に外部評価のサービスの評価結果や取り組み状況のほか、話し合われた内容などを周知していくことも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	x	外部評価の内容は伝えていない。	/	○	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	会議内容については、スタッフ会議にて報告し、日々の取り組みやサービス向上にて活かしている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念である「安全」「安心」「生きがい」を常に掲げて利用者の日々の暮らしを支援している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	いつでも見える位置に掲示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	介護福祉士試験等の資格取得の為の研修参加費の一部助成がある。それ以外の研修等については積極的に参加するよう周知しているものあまり参加できていない。	/	/	/	法人の規模は大きく、代表者の来訪は年1回程度に留まっているが、定期的にブロック長の来訪があり、管理者等から事業所の様子や意見を聞くことができる。約1年9か月前に、経営が移管されたことに伴って管理者は交代したものの、職員は継続雇用され、良好な関係が築かれている。また、職員は管理者やユニットリーダーに意見等を伝えやすい環境が整備されている。さらに、福利厚生も充実され、職員の誕生日には、法人から金一封が支給されるようになっている。職員の聞き取りから、「介護業界の人材不足は事業所でも直面しており、利用者のためにも、ゆとりある支援を行いたい」との話も聞かれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	細かい指導や学習についてはまだまだ改善すべき点がある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員には特別手当や各資格手当の支給がある。また、スタッフ会議にて各手当等の説明を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	x	市地域密着連絡会は参加できているが、他主催の勉強会には出来ていない状態。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ブロック長が定期的に顔を出し、職員の思いや意見を直接聞き、対応している。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修会があれば、研修内容を貼り出して職員に情報を伝えている。施設内研修で学んでいるが十分とはいえない。	/	/	○	管理者や職員は、虐待や不適切なケアがどのような行為が該当するかを理解している。職員同士で注意し合える関係までには至っていないが、スピーチロックなどの不適切な言動が見られた場合には管理者に報告するとともに、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。また、利用者の方に留まらず、家族に対する言葉遣いや状況報告書などを行う際にも、管理者や計画作成担当者は気を配っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	話合う事はあるがそういう場を作るのは少ない。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	虐待や不適切ケアがないよう普段から意識し、職員が互いに注意を払うよう促している。対応手順等に関しては、定期的に確認している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止に関する指針に基づき、職員には説明・理解を得ている。また、施設内研修にて年2回、教育、研修の実施を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束にあたる行為を十分に理解し利用者の状況に照らし合い、協議、検討を重ねている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束に関しては資料を活用しており、家族にも見てもらい、その上でどのようなリスクがあるか説明対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	制度については利用している方がおり、制度を理解しているがまだまだ学ぶ必要がある。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	専門機関に連携を図れ、円滑に行えるようにしている部分もある。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	勉強会を通じ、対応については周知しているが、対応マニュアルとして確立している物は不十分である。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師等と連携を図り、実践力を身に付けてはいるが、定期的に行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書は両ユニットで情報共有し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	×	ヒヤリハットを作成しリスクや危険について情報共有し事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があれば苦情相談内容を記録の項目に沿って記入しスタッフ会議で、報告必要時はユニット会議でも報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談内容の記録の項目に沿って出来事を記入し、スタッフ会議でも報告。必要時はユニット内でも話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば苦情相談内容を記録の項目に沿って記入しスタッフ会議で、報告必要時はユニット会議でも報告している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	面会等で意見や要望があれば、伺っているが、その事に機会まで作れていない。	◎	/	○	日常生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、柔軟に対応をしている。家族には、面会時や受診同行支援時等を活用して、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞くようにしている。以前に、受診時の状況報告書を見て、家族の表情が変わったことがあり、職員の記録方法を「○○ができない」などの否定的なことのみを記載することなく、できることを記録に残すなど、職員への周知徹底も行われている。また、会議などの機会を通して、管理者等は職員から意見を聞く機会を設けるとともに、日頃から職員に声をかけて気軽に意見を伝えてもらうなど、良好な関係を築いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には重要事項説明書にて説明しているが、あまり情報提供を適宜に行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ブロック長が定期的に顔を出し、職員の思いや意見を直接聞き、対応している。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議等での意見や提案は聞いているが、個別に聞く機会は殆どない。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	キャリアパスシートにて年1回以上自己評価に取り組んでる。	/	/	/	経営が移管されてから、初回の外部評価で、家族等にはサービスの評価結果を伝えることができておらず、今後の運営推進会議等を活用して伝達することを予定している。今回の評価結果は、会議の中で報告をするほか、家族に対して、事業所便りや事務連絡などを活用して、簡潔に取りまとめて報告するするなど、周知方法を検討していくことも期待される。また、サービス評価の取り組みの意義や目的を周知したり、評価結果の意見をもらったり、目標達成計画の取り組み状況のモニターを呼びかけて実施してもらうなどの取り組みが行われることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	目標達成計画書を達成していない。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	報告を行っていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取り組みや成果の確認を行っていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	訓練を行う際、マニュアルを確認し実施しているが、マニュアルを見直す必要がある。	/	/	/	各種マニュアルを作成し、年2回火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施している。各居室の入り口には、災害時避難のための赤テープの印を付けて、災害発生時に避難の状況が分かりやすいように工夫をしている。以前は、近隣住民と一緒に合同訓練を実施することもできていたが、地域の高齢化に伴い、「訓練の参加協力は難しい」と言われている。地域住民の協力支援が難しいことから、再度、地域の防災訓練に参加協力したり、運営推進会議を活用して、地域住民と話し合いをしたり、法人内での協力支援体制を強化するなどの取り組みが行われることも期待される。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対して、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、来訪時に避難訓練や災害の備えを伝えたり、事業所便りを活用して、訓練の様子を伝えたり、事業所内に訓練の様子の写真を掲載するなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練に関しては年1回消防士立ち合いの元、実施したり夜間を想定した避難訓練を行っているが、様々な時間帯は行っていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	訓練に関しては年1回消防士立ち合いの元実施しているがそれ以外は行っていない。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	コロナ感染防止もあるため、気軽に立ち寄りできない状態。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	消防署とは密に連携を図っているが、地域住民、近隣、他事業所等の協力体制はあまり確立されていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けての情報発信や活動は、積極的に取り組めていない部分がある。	/	/	/	入居などの電話相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。感染対策で協力を中止していたが、令和6年度から高校の実習生の受け入れの再開を予定している。また、外国人の技能実習生等の受け入れに協力をしている。さらに、市行政や地域包括支援センターなどの会議や研修に参加する機会は少ないものの、連携を図れるように努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば受け付けている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所の行事での交流はあるが、地域の方が集う場所としての解放及び活用は行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	以前は受け入れたがコロナ禍のため受け入れできていない状況	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	現在の所、あまり行っていない。	/	/	○	